

なかよしタイム(長時間保育・預かり保育) 年間指導計画

	I期(4月～5月上旬)	II期(5月中旬～7月中旬)	夏季長期休み(7月下旬～8月)	Ⅲ期(9月～10月上旬)	Ⅳ期(10月中旬～12月中旬)	冬季長期休み(12月下旬～1月上旬)	V期(1月中旬～3月)				
子どもの姿	・3歳児や新入園児は、教育時間後に部屋を移動する際には、少し不安な様子を見せたり、泣いて移動を拒んだりする子どもがみられる。 ・長時間保育で連日時間になると、不安を感じ、泣いて保育者のそばにいて甘えたり、保護者を思い出しさみしくなったりして、涙が出る子どももいる。 ・進級児の中には、年下の友達の手助けをしようとする姿が見られる。 ・みんなが集まった際に名前を呼んでもらうことを喜んで、異年齢の友達の名前を覚えて呼び合っている様子が見られる。(4・5歳児)	・多くの子どもがなかよしタイムの生活リズムに慣れてきて、なかよしタイムの部屋への移動がスムーズになる一方で、まだ移動時に不安を感じる子どももいる。 ・なかよしタイムの部屋にある玩具、絵本、素材や遊んでいる時間を把握し、なかよしタイムでできることがわかってくる。自分のしたい遊びに落ち着いて取り組めるようになってくる。 ・異年齢の友達と一緒にいること、一緒に遊ぶことを喜ぶ様子がよくみられる。異年齢間でも、共通の好きなものや遊びをもつ友達と一緒に遊ぶ姿が見られる。 ・みんなが集まった際に名前を呼んでもらい返事をしたり、異年齢の友達の名前を覚えて呼び合うことを楽しむ姿が見られる。(3・4・5歳児) ・4・5歳児の中には、教育時間での水遊び・プール遊びや暑さなどで、午後からは疲れて眠ったりし、1日中もいる。	・夏休み中は利用状況が多様になるため、友達とのつながり、遊びが変化し、より多様な友達関係が見られる。 ・夏休み中は、園で飼育している虫や動物、植物のお世話をなかよしタイムの子ども達と保育者ですの、それらのいきものに触れたり観察したりして、不思議に思ったことを友達と話したり調べたりしている。 ・毎日同じメンバーで過ごす友達とお店屋さんごっこやまごごとで、遊びに必要なものを作り、目的をもって遊ぶことが持続し、同学年の友達や異年齢児の友達とやり取りして遊ぶことが増えてくる。	・異年齢での関わりが楽しくなってきた、名前を呼び合ったり、経験したことを伝えたり、まごごとや製作遊びなど一緒に遊ぶことが持続したりなど、より関わりが広がってくる。 ・夏休み明けから初めて利用、単発で利用している1号児の子どもも、既に関係ができてきているなかよしタイムの友達を介して、比較的稳定になかよしタイムの生活に慣れていく。 ・運動会に向けた取り組みが楽しく、なかよしタイムでも教育時間に経験した運動会に関わる遊びを同年齢の友達と続けて楽しむ姿がみられる。	・戸外に出ると、4・5歳児がだるまさんがころんだや水鬼ごっこなど、大勢で楽しめる簡単なルールのある遊びを皆に声をかけて楽しんでいる。やり方を知らない3歳児も真似して一緒にやってくる。ルールを知らないからと4歳児や5歳児が3歳児にやり方を伝える姿もみられる。 ・カブラを積み上げたり、小さい積み木を組んだりして、同年齢や異年齢の友達と一緒に時間をかけてじっくりと取り組み、達成感を味わうことを楽しむ姿が見られる。 ・夕暮れまで戸外で思う存分体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。その中で、冬が近づくと季節の夕方の空・気温を感じ、気づいたことを話す子どももいる。	・冬休み中は利用状況が多様になるため、2号児を介して単発で利用する1号児ほかの学年の友達と関わる機会が増える。 ・みんなが集まった際には、一緒に歌を歌ったり、異年齢の友達と手をつないでふれあい遊びしたり、踊ったりなど、みんなと一緒に遊ぶ楽しさを感じている。 ・中当てや鬼ごっこなど、4・5歳児がルールと一緒に決めながら多くの人数で遊ぶことを楽しんでいる。 ・大学散歩の際や園庭のこどもの森で遊んでいる際には、紅葉している葉の色とりどりの美しさを感じたり、落葉している樹木の木の芽に気づいたりなど、感じたことや気づいたことを友達に話す姿がみられる。	・4・5歳児が教育時間に楽しんだり、挑戦したりしている手回しゴマ、紐ゴマ、けん玉、編み物など少し難しいことに、こつこつと取り組み続けて楽しんでいる姿がみられる。その様子をみた3歳児が、やってみしたい、同じようにしたいと関心を寄せ、保育者や4・5歳児にやり方を教えてもらいながら、じっくり続けて取り組む姿が見られる。 ・異年齢同士のかかわりも増え、アイデアや工夫したことを伝えながら遊び、互いに認め合いながら、学年混ざり合って遊ぶことが多くなってくる。 ・散歩や子どもたちの森での遊びで、身の回りの自然に触れて遊ぶ中で、季節の変化を肌で感じ、気づきや発見を伝え合う姿が見られる。				
養護	○個別の健康状態や教育時間疲れを考慮し、適度な水分補給や休息、午睡などを十分に摂り、1日を健康に過ごせるようにする。 ○教育時間後の子どものありのままを受け止め、子どものさまざまな気持ちや温かく受容し、発達や個人差に配慮しながら関わり、子どもが安心して1日を楽しめるようにする。 ○異年齢で過ごす環境を整え、自分のしたいことを十分に楽しめるようにゆとりとした時間をもち、安定した生活を送れるようにする。										
ねらい	なかよしタイムでは、ゆるやかなつながり(時間、空間、対象、人)を可能とするくらしを基盤に、一人ひとりがやりたい活動に取り組み、多様な人となつながらことを通して、教育時間での学びとの好循環を目指す。 ＜くらし＞ ゆるやかな時間の中で、午後のくらしを丁寧に送り、健康で安全で充実した生活をつくっていく ＜遊びを広げる・深める＞ 教育時間の遊びをさらに広げたり、深めたりする豊かな時間と空間を楽しむ ＜多様な人となつながら＞ 教育時間には異なる人との出＜多様な人となつながら＞教育時間とは異なる人との出会いの中で、人への親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを知る 長期休み中の長時間保育(2号認定の教育時間を含む)では、仲間や保育者などの保育環境の変化、夏の暑さや冬の寒さといった自然環境の変化の中でも、いつもの暮らしを丁寧に積み重ねることを基盤として、異年齢の仲間と協同しつ、1日そして長期間をかけてじっくりとやりとげる面白さや達成感を味わう。										
内容	・午睡(3歳児)をとリ、1日を元気に過ごす(3歳児) ・教育時間後をつくりて過ごし、自分のペースを保ちながら遊ぶ。 ・おやつ後のコップ・皿を洗うなど、なかよしタイムの生活様式を知り自分でできることをする。 ・異年齢の友達と生活の中で、役割を引き受け、片付けや当番活動などを進んで行う。(4月～5歳児・5月～4・5歳児) ・少人数での空間やたつぷりある時間の中で、じっくり没頭して遊ぶ。 ・同じ場ににいる異年齢児の存在に興味や関心をもったり、担任以外の担当保育者を頼りにしたりして過ごす。 ・新入園児や年下の学年の友達に自分の知っていることを伝え、一緒に遊んだり、世話をしたたりすることを通して感じる。(4・5歳児)	・休息タイム(4・5歳児)をとリ、元気に過ごす。(10月上旬まで) ・異年齢の友達のしていることに関心をもち、まねて遊ぶことを楽しむ。 ・虫や小動物、植物、気温、雲の様子などの身近な自然の1日の変化を観察したり、肌で感じたりする。 ・異年齢の友達と接する中で、互いに気持ちよく過ごすために、相手の気持ちや考えを大切にしながら過ごす。 ・異年齢の友達に頼ったり頼られたりする中で、互いに親しみをもって接する。 ・園内にいる異年齢児の存在に興味や関心をもったり、担任以外の担当保育者を頼りにしたりして過ごす。 ・新入園児や年下の学年の友達に自分の知っていることを伝え、一緒に遊んだり、世話をしたたりすることを通して感じる。(4・5歳児)	・異年齢の生活の場だからこそ発揮できる自分の力に気づき、自信をもって過ごす。 ・なかよしタイムの友達や保育者とやりたいことに継続して取り組み、じっくりとやり遂げる楽しさを感じたり充実感を味わったりする。 ・飼育しているいきもの1日や毎日の変化を感じ、不思議に思ったことを聞いたり、調べたりしながら愛着をもってお世話しようとする。 ・多様な保育者や友達と接することで、異なる視点や考え、感じ方に気づく。 ・園内の職員や地域で働く人々に接し、多様な活動があることに気づく。	・夏が終わり、秋へと季節が変わっていく様子を朝夕の時間に感じる。 ・朝夕のゆるやかな時間の流れの中で、葉の色が徐々に変わってきたこと、虫の鳴き声が変わってきたことに、異年齢の友達や保育者との会話や自分のタイミングで気づく。 ・朝夕に日没の時間や気温の変化や雲の形(空一面のうろこ雲)の違いなどに気づいたり、肌で感じたり、気候の変化について気づいたことを話す。 ・運動会ごっこでリレーやバハーンなど、異年齢の友達と一緒にすることを楽しむ。	・午後にはいち早く秋の過ごしやすいい気候を感じ、思い切り体を動かして遊ぶ。 ・朝夕の寒い時間帯に、初冬の気候や身の回りの自然に興味をもち、時間をかけてよく観察する。 ・午後に少人数でゆったりと落ち葉やどんぐりを拾い、秋の自然に触れる時間を楽しむ。	・クラスで楽しんでいるみんなが知っている歌やダンスなどを異年齢の友達と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しむ。 ・冬に長い時間を過ごす中で、冬の自然に気づき、興味・関心をもつ。 ・年の暮れや年始の雰囲気を感じ、身近な行事や地域の様子に興味や関心をもつ。 ・園内の職員や地域で働く人々に接し、関心をもつて関わろうとする。	・朝夕に気温の変化や風の様子、草木の変化を観察し、春が近づいてきていることを感じる。 ・なかよしタイムで楽しんだ経験を振り返り遊んだり、やりたい遊びに没頭したりする。 ・学年を超えての関わりを深め、互いに分かり合い、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・異年齢の友達と楽しんできた遊びを思い出し存分に楽しむ。 ・一年を通して仲良くなったなかよしタイムの友達と関わりを深め、一緒に活動することを楽しむ。				
環境構成◆援助▲	◆安心して過ごせるよう、なかよしタイムでの生活の流れや、おもちゃの場所などをイラストや写真で分かりやすく掲示しておく。また、生活の流れや方法を毎日同じようにする。 ▲生活の流れの切り換えについて、幼児の様子を見ながら声掛けしたり、手助けしたりすることで、自分でできることは自分で行っていくように援助し、幼児が自分でできた喜びを味わえるようにする。 ◆おやつ時の準備や片付けの場面などで、4・5歳児の力を借りるようにして、異年齢児の存在を知らせ、4・5歳児が年下の児のために役割を果たす体験ができるようにする。 ◆当番活動では、4・5歳児の担当する曜日や当番の内容(片付けの最後の点検、食事前の机拭きなど)を決め、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ▲4・5歳児が進級した喜びや自信をもって過ごせるように、一人ひとりの考えや思い、気持ちに寄り添い、やりたいことができるように支える。また、年下の友達の思いやりの気持ちをもって接している様子を見守り、認めていく。 ◆おやつ時間が楽しみなように、子どもが話したことをゆったり聞いたり、友達同士で会話を楽しみながら過ごしたりできるように、明るくアットホームな雰囲気づくりをする。 ▲1日の生活リズムや天候や朝夕の気温に応じて子どもの体調に配慮し、活動に合わせて衣服を調節し、水分補給や休息のタイミングを知らせていく。 ◆運動量が増える時期や、疲れが出た時には、体を休めることができるよう、ゆっくりと過ごせる環境を作る。 ◆保育が長時間に渡る幼児については、特にその様子を丁寧に捉え、疲れや甘えたい気持ちを受け止め、安心してゆったりと過ごせるようにする。 ◆夕方や人数が徐々に減ってきた時間帯には、不安な気持ちが大きくなる子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、お迎えまで安心して過ごせるようにする。 ◆着替えや水筒、作った作品など、持ち帰り忘れや取り違いがないように、ロッカーに自分で置くようにしたり、降園時の動線に荷物をまとめて置いたりして、子どもが自分で確認できるようにする。 ◆リラックスして午睡に入れるように、午睡の場所の環境(子どもの顔色・体の向きなどが確認できる程度の明るさ、心地よい室温、湿度、オルゴールのBGMなど)を整える。(3歳児) ◆午睡コートの場所を一定にするので、そこに行けば自分の布団がある子どもが分かり、靴や靴下を脱ぐ、名札を外す、タオルケットをかけるなど安心して眠る準備ができるようにする。(3歳児) ◆一人で眠れなかったり、寝ぐずりしたりなど眠るまでに時間がかかる子どもには、体に触れたり、さすったり、子どもの心地よいリズムで優しくタッチングしたりして、安心して眠れていくようにする。(3歳児) ◆4歳児の午睡は、家庭と相談しながら段階を踏んで、午睡を終了できるようにする。午睡が必要な子どもには、環境を整え、休息がとれるようにする。 ◆夕方まで心身共に健やかに過ごせるように、午睡をしない子どもも寝転んで休息をとれるよう、お昼寝マットを敷いて、子どもの状況にあわせ、30分程度体を休めることができるようにする。(4・5歳児) ▲いつも午睡をしない子どもでも、活動や前日の睡眠時間などで、眠くなる子どももいるので、一人一人に合わせた午睡が確保できるようにする。また、保護者には、午睡時間を伝え、家庭での過ごし方や生活リズムも考慮できるよう連携をとっていくようにする。 ▲眠たくなった4・5歳児の午睡時間は、1時間から2時間を目安にし、夜の睡眠に影響が出ないようにする。 ◆長期休み中に、一人ひとりの身の回りのことや生活習慣の自立に向けて、担任との連携をもとに、個別に丁寧に支援していく。 ▲一人一人の生活の仕方を見守り、自分でしようとする意欲が育つような言葉かけをする。							◆静の遊び、動の遊びの場を確保し、安全にやりたい遊びができるようにする。 ◆遊具、用具の置き場所は取り出しやすく片付けやすいなど、子どもたちの動線を考え、分かりやすくマークや写真などで表示する。 ◆ゆとりと、自分のやりたい遊びや好きな遊びを楽しめるように、ついたてやござなどを活用して、遊ぶ場をわかりやすく確保する。 ▲必要があれば、教育時間であったことや感じたことについて、話を聞いて共感することで、気持ちの整理を手助けし、なかよしタイムでの活動につなげる。 ◆教育時間に行っていた遊びの続きを展開できるように環境を整える。 ◆教育時間中の行事や活動や子どもの興味・関心に合わせて、いろいろな素材や道具、曲などを用意しておき、学年を超えて一緒に楽しめるようにする。 ◆夕方の散歩、ふんだんに玩具を用いた遊び、長い時間がかかったり保育者の支援を要するボードゲームのような遊びなど、なかよしタイムでしかできない遊びを用意し、異年齢でいろいろな遊びが経験できるようにする。(3歳児) ◆園内の虫や動物、植物など自然の1日の中での変化を感じられるように戸外に出て自然に触れる機会を多く持ったり、1日の変化が分かりやすい植物を栽培したりする。 ◆季節ごとに移り変わる、早朝、夕暮れ、日が落ちた後などの様々な時間で、教育時間と同じ体験、なかよしタイムならではの体験を味わえるようにする。 ▲季節ならではの行事に触れられる機会を設け、子ども達が興味を持った場合にはその活動を掘り下げて文化への理解を深める援助をする。 ◆それぞれの学年で、1学期後半に楽しんでいた遊びの経験をききかっりに続いて楽しめるように材料や素材などを準備しておく。 ◆クラスで飼育しているいきものをホールや遊戲室に集めて置き、日々の変化に気づけるようにしていく。図鑑やICT機器を活用して調べることができるように用意しておく。 ◆遊戲室や保育室など、広さを生かして遊ぶことが出来る環境をつくり、遊びの続きが楽しめるように場を置いておくことができるようにする。(お店屋さんごっこ、キャンプごっこ、プラネタリウムごっこ、お化け屋敷ごっこなど) ◆子ども達が自発的に興味を持った遊びなどのごこについて、長期休みを通じて時間をかけて取り組めるような活動を提案する。その中で、経験したことのないことに取り組んだり、友達と力を合わせてやり遂げる楽しさが味わえるようにする。 ◆多様な体験を用意し、子ども達が自分から遊びに取り入れたり、興味をもって、自分なりに探求を深め、試行錯誤で遊ぶ機会をもてるようにする。 ◆長期休みを使って、その季節ならではの体験ができる機会をつくり、なかよしタイムの友達や保育者と一緒に楽しむことができるようにする。また、なかよしタイムの友達や保育者と何かやりたいこと、知りたいことに継続してじっくり取り組めるような機会をつくる。(春先の体験:春のお花見、ツバを観察する会 など/夏夏の体験:8月のお誕生日会、スイカ割り、キャンプのテントでお昼寝、飼育している生き物のお世話と大学の博士に質問、大学生の部活訪問、星と月を見る会 /冬の体験:焼き芋の会、お楽しみ会、音楽会、書初め など) ◆教育時間に各学年で楽しんでいた遊びがなかよしタイムでもでき、異年齢で刺激につながるように、材料や素材、用具などを用意しておく。その中で、じっくり取り組んだり、今までやったことのないことに挑戦したり、自分の力を試したりできるようにする。 ▲編み物や製作などじっくり作り上げたり、大縄や一輪車など何回も挑戦できるよう、取り組み時間を十分にとりようにする。また、できた喜びや達成感をともに喜び自信につなげていく。 ◆異年齢児でカブラや小積み木など大量にある玩具で遊ぶ時間や空間をとり、互いに刺激を受けながら遊ぶ面白さや、協同して同じものを作り上げる達成感を感じられるようにする。 ◆寒い気候の中で午後から十分に体を動かして遊べるように、大縄、相撲ごっこ、中当てなど、室内外で遊べる場や時間をとるようにする。		▲早朝保育では、一人一人を包み込むように受け入れ、甘えたり、頼ったりできるようにし、安定した気持ちで1日がスタートできるようにする。 ◆異年齢児の子どもに親しみがあるように、みんなが集まった際には、年齢や時期など段階を追って、名前を読んで返事をする。自分で名前を言うように機会をつくる。 ▲異年齢児との関わりを通して、親近感や頼もしさ、誇らしさを感じられるように、それぞれの子どもの特長味を具体的に知らせていき、互いの良さに気づけるようにする。 ▲異年齢中で過ごす中で、保育者がそれぞれの子どもの良いところや頑張っているところを伝えたり、憧れの気持ちなどを代弁したりする中で、思いやりをもつて接すること、人に親切にすることの心地よさ、優しく接してもらうことの心地よさなどを感じられるようにする。 ◆多様な個性の子どもの様々なかかわり方を体験していきその中で、葛藤や我慢、理不尽さなど子ども心かいらんな感情を抱いた際には共感し、思いを伝え、認め合い、わかり合い、乗り越えていけるよう、気持ちの立て直し方や人との接し方を共に考えていくようにする。 ◆他の学年の子どもとの遊びをじっと見ている子どもの横で一緒に見たり、気持ちが向きそうな時には遊びに誘ったりしながら、異年齢の友達と過ごす楽しさが感じられるようにする。 ▲慣れたまでは、担任もなかよしタイムに入り一緒に遊び、安心して過ごせるようにする。担当保育者とも連携し、一人一人が心のよりどころをみつけられるようにしていく。 ▲友達が降園し、徐々に少なくなっていくことに不安を感じ、迎えを待つ子どもには、保育者がそばで寄り添い、一緒に過ごす。 ▲異年齢児との自然な関わりを見守り、遊びのイメージを共有できるように仲立ちしながら、一緒に遊ぶ楽しさに共感していく ▲同じ場で過ごす異年齢児の存在を他の児に知らせるような声かけ、関わりを意識する。 ◆いろいろな友達と交流ができるよう、異年齢が混ざり合って座る場を散歩のベアやおやつやゲームの場などで意識的に機会をつくる。 ◆長期休み中や1日の生活の様々な場面で、給食調理員さんや用務員さん、事務員さんなどの姿を見て、身近にいる働く人を知り、親しみをもたったり、いつもは気づけなかった仕事や作業に関心をもち、話題にしたししながら、自分たちが生活するために様々な人が働いてくれて支えてもらっていることに気づける機会にもする。 ◆多様な人との関わりを楽しむように、教育大学の人々(学生や職員)や地域の人など人と関わる機会をつくる。 ◆大学の友達の地域への散歩や施設への訪問などの機会を通して、教育大学の人々(学生や職員)や地域で働く人と接する機会を設け、様々な人の活動の魅力を伝える。 ▲出会った地域の人や教育大学内(学生や職員)の人々に親しみをもってあいさつしたり、地域の行事に参加したり、多様な人々との関わる楽しさを共感する。 ▲異年齢児の関わりを見守りながら、互いを認め合ったり、気持ちを受け止めてくれるような雰囲気や大切にすること。 ▲なかよしタイムの友達と、年齢関係なく遊んだり、やり取りしたり、互いを分かって関わったりする姿を見守り、多様な人となつながら楽しさや面白さを感じられるようにする。	
食育	・給食やおやつ時の準備や片付け、あいさつ、おやつ時の皿・コップ洗いや自分たちでできることをする。 ・なかよしタイムの友達と一緒に食べることを楽しみにする。 ・食に関する子どもの興味・関心や季節の旬の食材など機会をとらえて、クッキングやたき火で焼き芋など作って食べる楽しみを味わう。 ・長期休みや年間を通して、栽培・観察・収穫を体験し、食に関心をもつ。 ・おやつ時の食材や作り方、発祥の地などを話題にし、食に関する文化や地域や国に関心をもつ。										
教職員の連携	・子どもの1日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮し、一人一人の情報を密に共有する。日々の振り返りから子どもの姿をみとり、ねらい、環境構成・援助の意図について共通理解のもと、保育にあたるようにする。 ・預かり保育担当者と担任・管理職などが、月2回のミーティングをもち、日々の振り返りから子どもの姿をみとり、ねらい、環境構成・援助の意図について共通理解のもと、保育にあたるようにする。 ・教育時間とはなかよしタイムでの経験の好循環を生み出すように、子どもたちのくらしや遊び、人とのつながりを保育者が架構する(ドキュメンテーションなども使用) ・クラス担任が定期的になかよしタイムの担当保育者として保育にあたることで、〈多様な人となつながら〉で大切にしたい要素を促進する。 ・なかよしタイムへの不安が大きい子どもには、クラス担任との連携をとり、なかよしタイムの時間も担任が関わることや安心感があるようにする。 ・一人一人の健康状態を定期的に把握し、動きや表情、皮膚の状態など変わったことがないか、観察し、保育者間で共有する。 ・夏休み明けの時期は、教育実習が始まっていつと園の雰囲気や異なるので、それを意識している子ども、夏からの暑さで疲れを感じている子ども、季節の変わり目で体調を崩す子どもが多くなるので、担任と密に連携をとって通常の保育時間となかよしタイムの様子をより詳細に伝え合うようにする。 ・寒くなって体調を崩す子どもでもてくる季節には、担任と連携をとり、子どもの体調や感染症の流行、子どもの接触機会などの情報を共有する。										
家庭との連携・保護者支援・地域とのかわり	・送り迎え時の情緒的サポート、気持ちの切り替えの手伝いをするこで親をサポートする。 ・忙しい保護者の方も子どもの日々の姿を理解しやすいように、ドキュメンテーションなどを活用して伝える。 ・午睡時間を連絡アプリで保護者に毎日配信し、家庭での生活リズムにもつながるようにする。(3歳児) ・保護者同士の交流(異年齢学年の親同士の交流)や先生との立ち話の場を設けることで、気軽に相談できる雰囲気づくりを計ける。 ・大学内や地域の神社・公園へ散歩を通して、地域との関わりを深めるとも認定こども園の役割を知ってもらう機会とする。 ・大学の絵本の広場など、地域の資源を活かした保育を展開する。 ・地域の施設や園庭開放での交流(ホーム訪問・こども園遊びにきませんかの日)などを通して、子どもたちが地域の中で過ごす時間を増やす。										